推薦：一般財団法人 日本交通安全教育普及協会　監修：日本市民安全学会 会長 石附 弘
指導：首都大学東京　教授 樋口 貴広

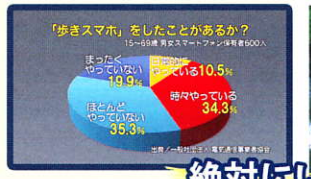
交通安全教育DVD　小学生向け 約17分

スマホ・ケータイしながら大丈夫？

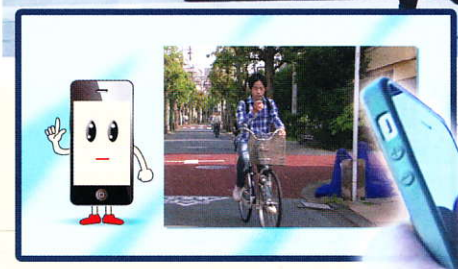
「ながら」の行動が交通事故へ

企画意図

スマートフォン利用者の低年齢化が進んでいます。ある調査によれば、小学校高学年（10歳～12歳）では31.6%、中学生が54.9%、高校生では90.8%が携帯電話やスマートフォンを所有しており、スマートフォンの比率がその半数を超え、さらに増加傾向にあると言われています。
「歩きスマホ」という流行語が生まれていますが、小学生の場合は「歩きながらのゲーム（「歩きゲーム」）」や、スマホ・ケータイを操作しながらの自転車運転が問題となっており、その危険性を子どもたちにしっかりと伝えておく必要性があります。
この作品は、小学生向けに、なぜ歩きスマホや歩きゲームが危険なのか、実験をまじえながら科学的に検証します。
そして、どうすれば事故を防げるか、その対策方法を詳しく紹介します。



絶対にいけない！
小学生に多い「歩きスマホ」「歩きゲーム」



交通安全教育DVD　中学生・高校生向け 約18分

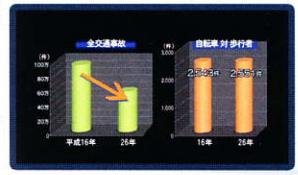
その自転車の運転危険です！

交通事故を検証する

企画意図

スマートフォンの利用者の増加とともに、その使用中の事故も増えています。その中で危険なものの一つが、中学生や高校生に多い「自転車乗車中のスマホ使用（「自転車スマホ」）」です。自転車スマホは、片手運転で不安定になるほか、"非注意性盲"と呼ばれる状態となり、事故を起こしやすくなります。
この作品は、自転車スマホの危険性を再現映像や実験でわかりやすく示し、自転車を安全に乗るために設けられた様々なルール（道路交通法、自転車安全利用五則）や、違反者への措置内容を詳しく紹介します。中学生・高校生に、"自転車スマホが引き起こす事故の恐ろしさ"と"正しい自転車の乗り方"を理解してもらうことで、自転車乗用中の事故の撲滅を目指します。

自転車運転中に
スマホを操作する
中学生・高校生



「大丈夫だろう」という油断が大変なことに！

映学社作品

推薦：一般財団法人 日本交通安全教育普及協会

交通安全教育ＤＶＤ
小学生向け

スマホ・ケータイしながら大丈夫？「ながら」の行動が交通事故へ

作品の概要

スマホのキャラクター・すまたろうと、裕太くんの対話形式で進行します。

■とっても危険！歩きスマホ、歩きゲーム

歩きながらゲームをしている裕太くんは、前方にある障害物に気づかずぶつかってしまう。それを見たすまたろうは、スマホ使用中の事故の統計を示しながら、「歩きスマホ」「歩きゲーム」が「ぶつかる」「ころぶ」「落ちる」危険性があることを説明する。

■「見えているようで見えない」状態とは？

「ゲームをしていても目の前は全部隠れていないし、広く見えているはずなのに、どうして事故が起きてしまうんだろう？」と、裕太くん。それは、見えているようで見えない状態、"非注意性盲"に陥ってしまうからである。それを実験で検証し、専門家の先生に解説してもらう。

■注意力の低下

事故が起きる原因として、"注意力の低下"もある。スマホの画面など、注意が他に向かっているときは、目の前で起きていることに反応出来ないのである。

■自転車に乗りながらのスマホ・ゲーム

自転車に乗りながらのスマホやゲームは、スピードが出ているため、歩きスマホよりもさらに危険だ。

自転車は、片手運転だと正しいハンドル操作ができず、フラフラしてしまう。両手でハンドルを握っているときと、片手でハンドルを握っているときでは運転がどう違うのか、実験映像で検証していく。

■安全に自転車に乗るためには

子どもたちが自転車に乗るときに守るべき交通ルールを分かりやすく示していく。最後に、「歩きゲーム、歩きスマホは絶対にＮＯ！」と、強く訴えかける。

■ライブラリー価格　本体 **¥65,000**+税
■学校価格（小学校のみ）　本体 **¥33,000**+税
■DVD［カラー・約17分］
■2016年・映学社作品

交通安全教育ＤＶＤ
中学生・高校生向け

その自転車の運転 危険です！ 交通事故を検証する

作品の概要

■年々増え続ける自転車スマホ

全国の交通事故は平成16年からの10年間で大きく減少しているが、自転車対歩行者の事故では、逆に増加している。自転車と歩行者の事故で、特に最近よく発生しているのが、「自転車スマホ」による事故である。

■自転車スマホの危険性

高校生の鈴木君は、自転車に乗りながらメールを打っていて、前方を歩く男性にぶつかってしまう…。この事故のケースを見ながら、なぜ自転車スマホが危険なのかを検証していく。

■危険性①片手運転

片手運転の危険性をスラロームを用いた実験で検証する。両手でハンドルを握って運転する場合と、片手でスマホを操作しながら運転する場合で走り方にどのような違いがあるのだろうか？

■危険性②視線の問題――注意力の低下

事故を起こした加害者は、歩行者の動きが視野に入っていながら、見えない状態になっていた。これは、一つのことに注意を集中していると、それ以外のことに鈍感になってしまう現象（"非注意性盲"）が起きているからである。アイマークカメラによる実験や専門家の意見をもとに、具体的に示していく。

■交通ルールを見直そう

自転車安全利用五則、平成27年6月より施行された「自転車運転時の危険行為14類型」、違反者へのペナルティなどを紹介し、自転車に乗るときの基本ルールをおさらいする。
「これぐらいなら大丈夫」「まさか自分は」と思う気持ちに甘えず、自転車の安全な運転について考える必要性を訴える。

■ライブラリー価格　本体 **¥65,000**+税
■学校価格（中学校・高校のみ）　本体 **¥33,000**+税
■DVD［カラー・約18分］
■2016年・映学社作品

監修　日本市民安全学会 会長　石附 弘
指導　首都大学東京　教授　樋口 貴広
制作・著作　株式会社 映学社

企画・制作統括　髙木 裕己
脚本・演出　細見 吉夫
制作　北西 洋一
コーディネーター　斎藤 晃顕